■タイ：EGAT、電源開発計画を見直し

発電会社（EGAT）は2013年3月14日、保有する発電設備容量約3,200万kWの約70%をガス火力が占めていることから、ミャンマーからのガス供給が停止すると電力不足に陥る可能性があるため、現在の電源開発計画（PDP：2013～2030年：2030年までに3,900万kWを開発）を見直し、将来的に石炭火力発電所の比率を高めていくと発表した。現行PDPでは、コンバインドサイクル発電所を中心として開発が行われることになっており、石炭火力については800万kWの開発に留まっている。10月に発表が予定されている新PDPでは、2,000万kW以上の石炭火力の開発が盛り込まれると見られる。